

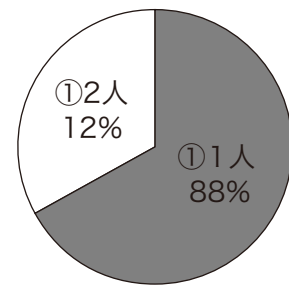
企業内実習アンケート(学生用)

職種・形態	職種:左官 ・ 形態:短期集中型
実習先	上田左官店、真改工業
実習期間	9月4日 ~ 9月9日 合計6日(48時間)

1 実習人数

あなたといっしょに実習を行った生徒・学生は何人でしたか。

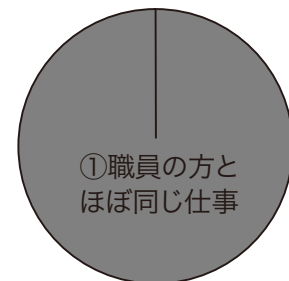
項目	人数	割合
①1人	1	33%
②2人	2	67%



2 実習内容

企業で、主にどんな活動・仕事をさせていただきましたか。

項目	人数	割合
①職員の方とほぼ同じ仕事	3	100%
②職員の方の仕事の手伝い	0	0%
③実習用の特別な活動	0	0%
④仕事の見学や整理整頓・清掃	0	0%



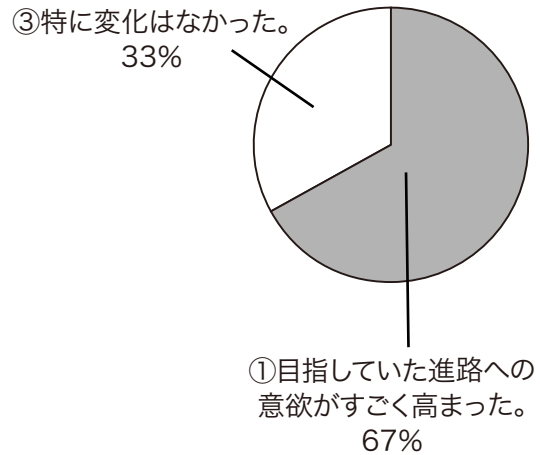
3 実習の成果

(1) 実習に参加して、得たことを上位から順に5点、箇条書きにしてください。

- ①塗りつけの時間の速さなど、職人の技術すごさに感動した。
- ②左官の仕事の難しさを感じた。
- ③人の暖かさを体験した。
- ④自分の改めるべき点があった。
- ⑤現場の仕事の流れが分かった。
- ⑥コテの使い方・動かし方が勉強になった。
- ⑦塵掃除の大切さが分かった。

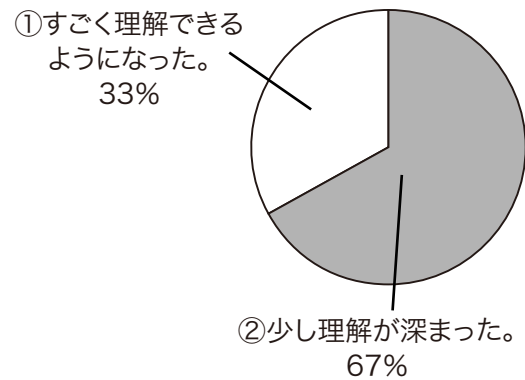
(2) 実習に参加して、自分の進路への考え方はどう変わりましたか。

項目	人数	割合
①目指していた進路への意欲がすごく高まった。	2	67%
②目指していた進路への意欲がやや高まった。	0	0%
③特に変化はなかった。	1	33%
④目指していた進路に迷いが出てきた。	0	0%
⑤目指していた進路を考え直すきっかけになった。	0	0%



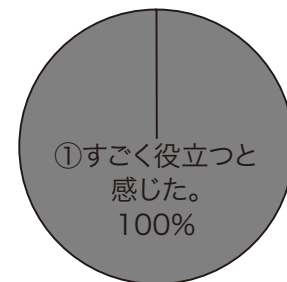
(3) 実際の現場で実習したことにより、これまでに学校で学んだことが、より理解できるようになりましたか。

項目	人数	割合
①すごく理解できるようになった。	1	33%
②少し理解が深まった。	2	67%
③学校で理解した程度とあまり変わりがなかった。	0	0%



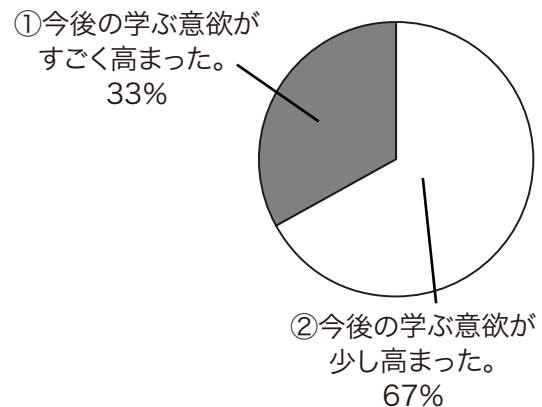
(4) 実際の現場での実習は、これからの学習に役立ちそうですか。

項目	人数	割合
①すごく役立つと感じた。	3	100%
②少し役立つと感じた。	0	0%
③役立つとは、あまり思わない。	0	0%



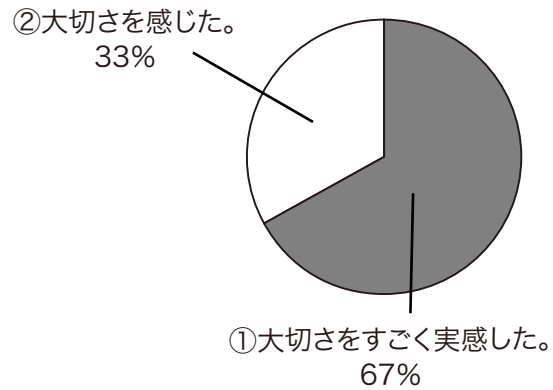
(5) 実習に参加したことにより、もっといろんなことを広く・深く学びたいという、意欲が高まりましたか。

項目	人数	割合
①今後の学ぶ意欲がすごく高まった。	1	33%
②今後の学ぶ意欲が少し高まった。	2	67%
③今後の学ぶ意欲はこれまでと変わらなかった。	0	0%



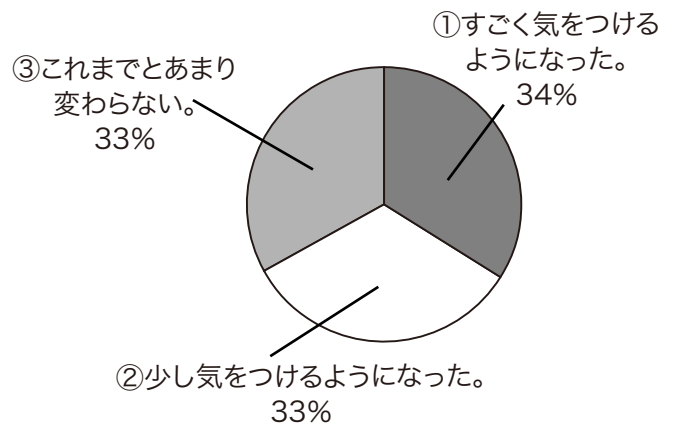
(6) 実習に参加したことにより、礼儀や挨拶・マナーなどの大切さを感じましたか。

項目	人数	割合
①大切さをすごく実感した。	2	67%
②大切さを感じた。	1	33%
③大切さは、あまり感じなかった。	0	0%



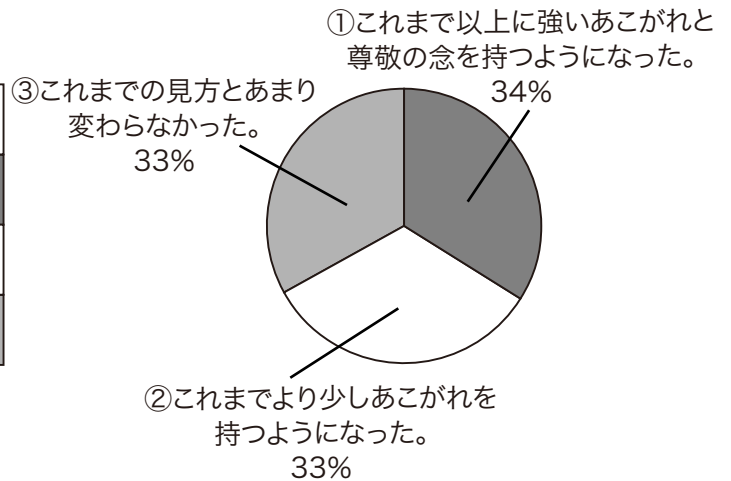
(7) 実習に参加をしたことにより、日常生活においても礼儀や挨拶・マナーなどに気をつけるようになりましたか。

項目	人数	割合
①すごく気をつけるようになった。	1	34%
②少し気をつけるようになった。	1	33%
③これまでとあまり変わらない。	1	33%



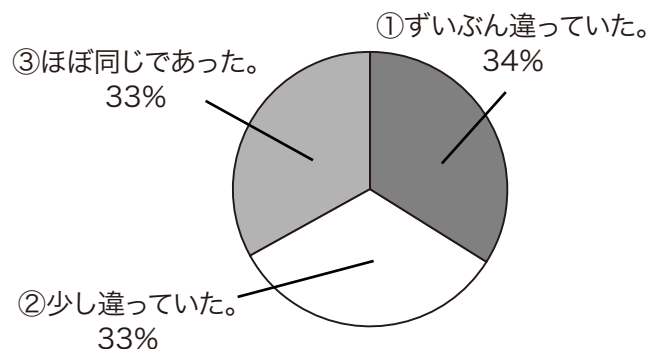
(8) 実習に参加したことにより、職業人(職人)の生き方に対する見方が変わりましたか。

項目	人数	割合
①これまで以上に強いあこがれと尊敬の念を持つようになった。	1	34%
②これまでより少しあこがれを持つようになった。	1	33%
③これまでの見方とあまり変わらなかった。	1	33%



(9) 事前に考えていた職場・現場のイメージと実際は違っていましたか。

項目	人数	割合
①ずいぶん違っていた。	1	34%
②少し違っていた。	1	33%
③ほぼ同じであった。	1	33%



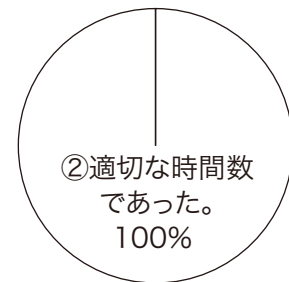
(10) 前の問い(9)で「ずいぶん違っていた」、「少し違っていた」と回答した方にお聞きます。
 どんな点が違っていましたか。箇条書きにしてください。

①仕事の流れ

4 実習のあり方

(1) 実習の期間は適切でしたか。

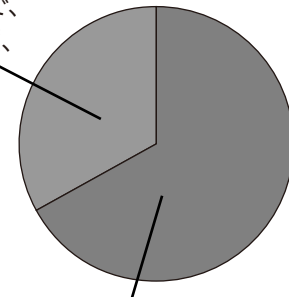
項目	人数	割合
①もっと実習の時間数を増やしてほしい。	0	0%
②適切な時間数であった。	3	100%
③もう少し実習の時間を減らしてほしい。	0	0%



(2) 実習の時期は適切でしたか。

項目	人数	割合
①夏休みに集中的に実施した、今回の時期でよかった。	2	67%
②夏休みではなく、春休みに集中して実施してほしい。	0	0%
③前期の授業の中で、毎週、週に1回程度、実施してほしい。	1	33%
④後期の授業の中で、毎週、週に1回程度、実施してほしい。	0	0%

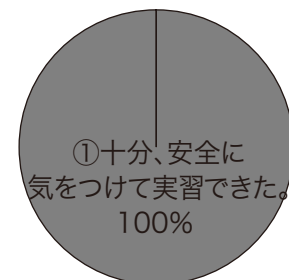
③前期の授業の中で、
毎週、週に1回程度、
実施してほしい。
33%



①夏休みに集中的に実施した、
今回の時期でよかった。
67

(3) 安全に気をつけて実習を行えましたか。

項目	人数	割合
①十分、安全に気をつけて実習できた。	3	100%
②気をつけたが、徹底することが難しかった。	0	0%
③何に気をつければよいか分からなかった。	0	0%



(4) 守秘義務があることを自覚し、実習が行えましたか。

項目	人数	割合
①十分に気をつけて実習を行った。	3	100%
②あまり自覚せずに実習を行った。	0	0%
③分からなかった。	0	0%
④守秘義務を違反して、注意を受けた。	0	0%



5 実習をさらに充実したものにするために、学校や受入企業にどのような工夫をしてほしいですか。改善点があれば箇条書きにしてください。

【学校に対して】

- ①実習の日程をはやくらせてほしい。
- ②学校で塗りつけの練習をさせてほしい

【企業に対して】

記載なし

アンケート結果(学生:左官)

- (1) 実習に参加して、自分の進路への考え方はどう変わりましたか。という問いに対して、「目指していた進路への意欲がすごく高まった。」67%であった。
- (2) 実際の現場で実習したことにより、これまでに学校で学んだことが、より理解できるようになりましたか。という問いに対して、「少し理解が深まった。」67%、「すごく理解できるようになった。」33%であった。
- (3) 実際の現場での実習は、これからの学習に役立ちそうですか。という問いに対して、参加者全員から「すごく役立つと感じた。」との回答が得られた。
- (4) 実習に参加したことにより、もっといろんなことを広く・深く学びたいという、意欲が高まりましたか。という問いに対して、「学ぶ意欲が少し高まった。」67%、「学ぶ意欲がすごく高まった。」33%であった。
- (5) 実習に参加したことにより、礼儀や挨拶・マナーなどの大切さを感じましたか。という問いに対して、「すごく実感した。」67%、「大切さを感じた。」33%であった。
- (6) 実習に参加をしたことにより、日常生活においても礼儀や挨拶・マナーなどに気をつけるようになりましたか。という問いに対して、「すごく気をつけるようになった。」・「少し気をつけるようになった。」・「これまでとあまり変わらない」がそれぞれ33%であった。
- (7) 実習に参加したことにより、職業人(監督・職人)の生き方に対する見方が変わりましたか。という問いに対して、「これまで以上に強いあこがれと尊敬の念を持つようになった。」・「これまでより少しあこがれを持つようになった。」・「これまでの見方とあまり変わらなかった」がそれぞれ33%であった。
- (8) 安全に気をつけて実習を行えましたか。という問いに対して、参加者全員から「十分、安全に気をつけて実習できた。」と回答が得られた。
- (9) 守秘義務があることを自覚し、実習が行えましたか。という問いに対して、参加者全員から「十分に気をつけて実習を行った。」と回答が得られた。

【まとめ】

企業内実習を通して、学生自身が進むべき進路を考えるきっかけの場となる部分や学ぶ事に対して意欲が高まったという結果が得られた。また、礼儀・挨拶・マナーや守秘義務といった大切さを学ぶきっかけとなっている。

このように、実体験の中で多くを学ぶ姿勢を見直すきっかけとなる企業内実習は、学生にとって有意義なものと考えられる。

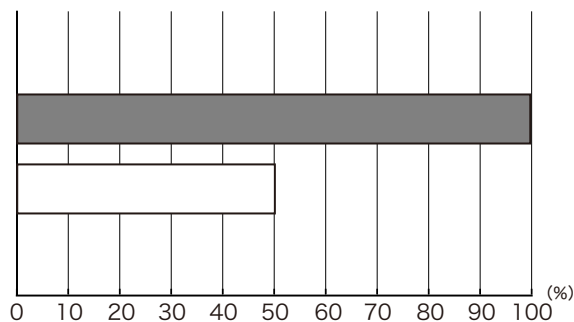
企業内実習アンケート(受入企業用)

職種・形態	職種:大工・左官 形態:短期集中型
実習先	井上晴登建設、真改工業
実習期間	大工:10月5日～2月1日 合計15日 (60時間) 左官: 9月 4日～9月9日 合計6日 (48時間)
実習人数	大工4名、左官2名

1 事前の準備・打ち合わせ等について

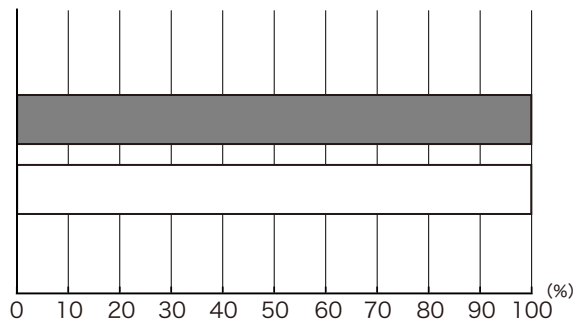
(1) 学校が事前に準備しておく必要があるものは、どんなものですか。(複数回答可)

項目	人数	割合
①学生の自宅住所や連絡先を書いた名簿	2	100%
②学生の仕事や将来に関する考え方を書いた作文	1	50%
③その他、必要と思われるもの	0	0%



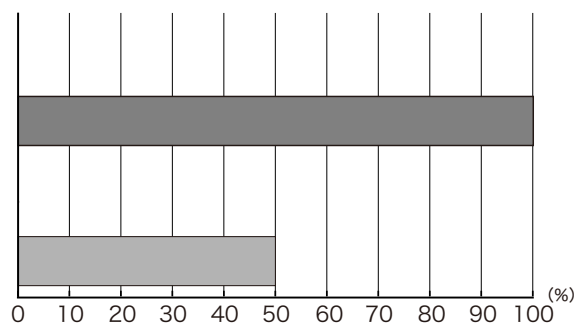
(2) 学校が事前に指導する必要があることは、どんなことですか。(複数回答可)

項目	人数	割合
①安全に関する知識と注意事項	2	100%
②守秘義務に関する知識と注意事項	2	100%
③その他、必要と思われるもの	0	0%



(3) 学校と事前に打ち合わせておく必要があるものは、
 どんなことですか。(複数回答可)

項目	人数	割合
①学生が怪我、病気になったときの対応方法	2	100%
②学生の学校での様子、個性など	0	0%
③その他、必要と思われるもの	1	50%

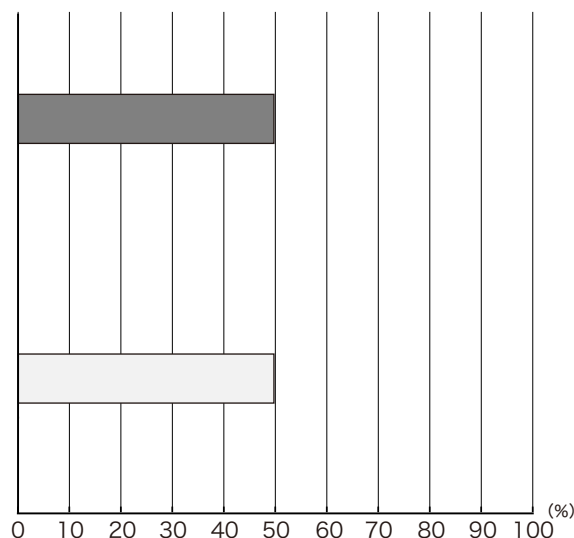


・交通手段

2 企業内実習を円滑に行うにあたっての学生の知識や障害について

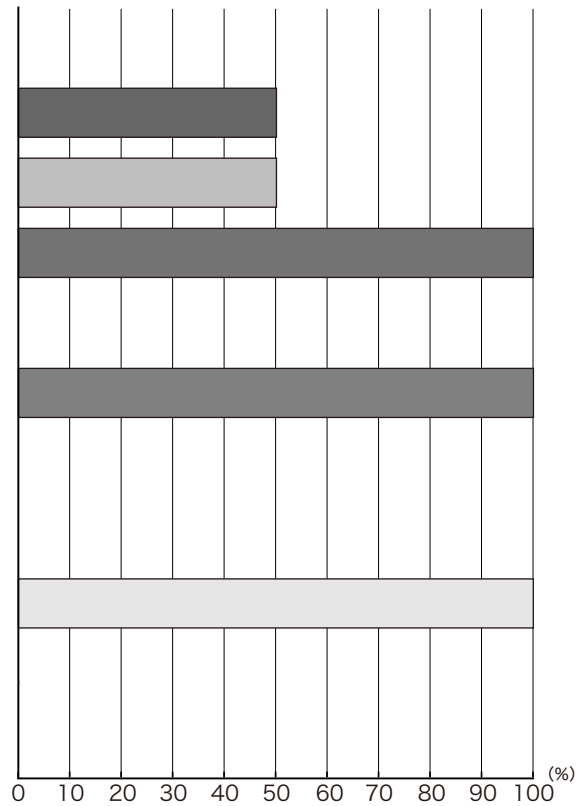
(1) 実習を行う学生は、どの程度の建設の知識が必要
 ですか。(1つ選択)

項目	人数	割合
①実習を行う内容について、学校で学んでおく必要がある。	1	50%
②実習を行う内容について、できれば学校で学んでおいたほうがよい。	0	0%
③基本的なことが理解できていれば、実習で行う内容を学校で学んでいなくてもよい。	0	0%
④実習で行うことと、学校で学ぶことは、直接、結びつかなくても、将来の一般的な資質・能力の向上につながればよい。	1	50%
⑤その他	0	0%



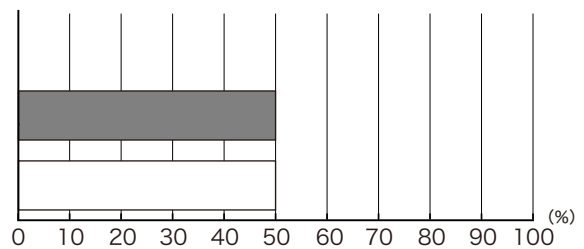
(2) 実習の障害となるのはどんなことだと思われますか。
(複数回答可)

項目	人数	割合
①安全に対する知識の不足	1	50%
②守秘義務に関する意識の希薄さ	1	50%
③礼儀や挨拶等の基本的な社会生活上のマナーの欠如	2	100%
④ルールを守る規範意識の欠如	0	0%
⑤実習への活動意欲の低さ	2	100%
⑥積極的に学ぼうとする能動性の低さ	0	0%
⑦コミュニケーション能力の低さ	0	0%
⑧職場に馴染もうとする協調性の低さ	2	100%
⑨他者への思いやりの心の低さ	0	0%
⑩その他	0	0%



(3) 実習中に問題となることがありましたか。(1つ選択)

項目	人数	割合
①なかった。	1	50%
②あった。それは、どんなことですか。	1	50%

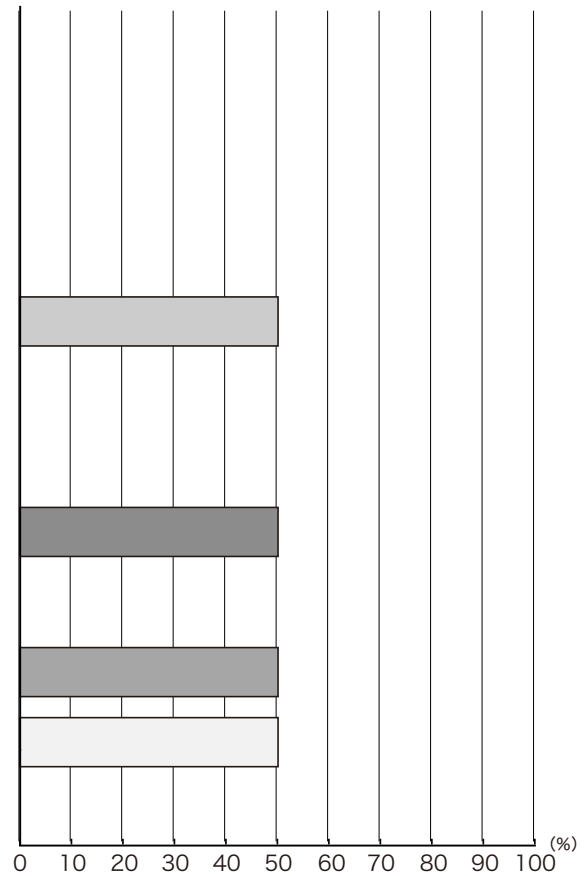


・欠席した学生がいた。受け入れ側としては、毎回、休まずに来てもらいたい。

3 企業内実習の意義について

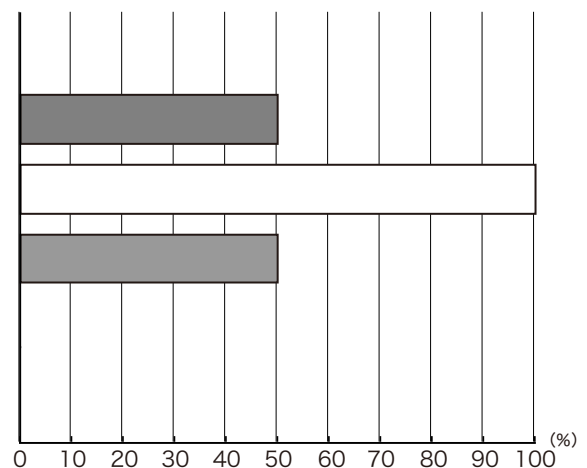
(1) 学生たちが、この実習で得た最も重要なものは何だと思われますか。(2つ選択)

項目	人数	割合
①建設や職種に関する知識・技能	0	0%
②現場の仕事の大まかな流れ	0	0%
③現場の雰囲気	0	0%
④自分の技術力のなさを実感したこと	1	50%
⑤自分の志望と現実の職場とのギャップ	0	0%
⑥安全に関する知識や態度	0	0%
⑦社会生活上のマナーや規範意識	1	50%
⑧協力することの大切さや他人とのネットワークの必要性	0	0%
⑨働く人たちの仕事に対する考え方・姿勢	1	50%
⑩座学(授業)と社会(現場)の違い	1	50%
⑪その他	0	0%



(2) 実習受入企業にとって、どのような意義がありましたか。(複数回答可)

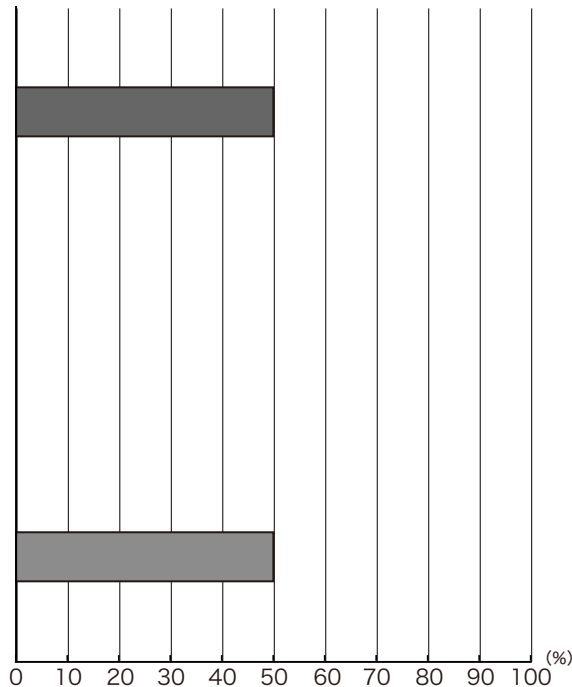
項目	人数	割合
①少しは仕事の役に立った。	1	50%
②若い学生が実習に来たことにより、職場の雰囲気がにぎやかになった。	2	100%
③若い職員に学生を指導させたため、その職員の勉強になった。	1	50%
④企業にとって、直接的なメリットはなかった。	0	0%
⑤その他	0	0%



4 企業内実習全体を振り返って

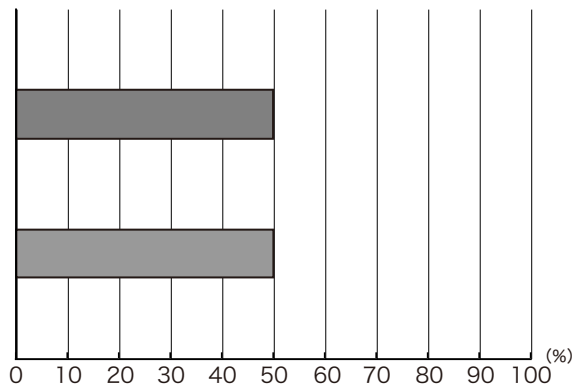
(1) 実習受入企業にとって、どんなことが大変だったですか。(複数回答可)

項目	人数	割合
①学生に行わせるプログラム作りが大変だった。	1	50%
②仕事が忙しくて、学生を指導する職員がいなくて困った。	0	0%
③学生が消極的で一つ一つ指示しないと動かないので困った。	0	0%
④学生の安全面の配慮で、大変に気がつかった。	0	0%
⑤仕事が忙しく、毎日、日報に目を通すのが大変だった。	0	0%
⑥学生の評価を依頼されたが、ずっと観察していないので評価することが難しかった。	0	0%
⑦特に、大変なことはなかった。	1	50%
⑧その他	0	0%



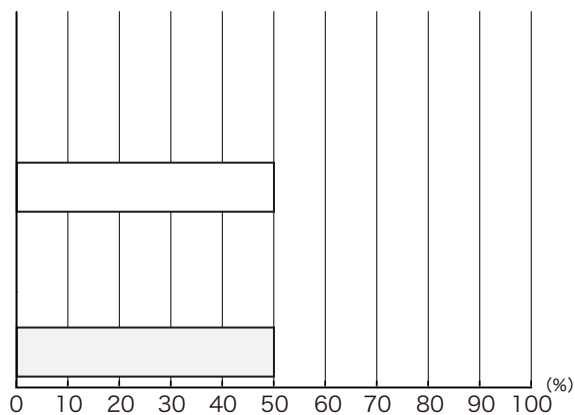
(2) 特に企業として、ご配慮いただいたことは、どんなことですか。(複数回答可)

項目	人数	割合
①建設業に興味を持たせるため、実習プログラムを工夫した。	1	50%
②現場の実際の様子を体験させるため、職員の一員として仕事に取り組みさせた。	0	0%
③職場に馴染ませるため、若い職員を指導係にした。	1	50%
④その他	0	0%



(3) どのような考えのもと、実習を受け入れていただいたか、お聞かせください。(複数回答可)

項目	人数	割合
①社会が求めている即戦力の育成に貢献するため、実習を受け入れた。	0	0%
②地元の建設業で働く人材を確保するため、実習を受け入れた。	1	50%
③学生に現場の実際を体験させ、早期退職等のミスマッチを防ぐことに尽力するため、実習を受け入れた。	0	0%
④その他	1	50%



- ・学業とプロとの違いを体験し、将来に活かしてもらいたい。
- ・自社の若い職員にとっても、勉強になるから。

アンケート結果(企業:大工・左官)

- (1) 学校が事前の準備・打ち合わせ等の学校が事前に準備しておく必要があるものについての問いに対して、「学生の自宅住所や連絡先を書いた名簿」100%、「学生の仕事や将来に関する考え方を書いた作文」50%であった。
- (2) 学校が事前に指導する必要があることについての問いに対して、「安全に関する知識と注意事項」・「守秘義務に関する知識と注意事項」がともに、100%であった。
- (3) 学校と事前に打ち合わせしておく必要があるものについての問いに対して、「学生が怪我、病気になったときの対応方法」100%、「その他:交通手段」50%であった。
- (4) 建設の知識の必要性についての問いに対して、「学校で学んでおく必要がある。」・「実習で行うことと、学校で学ぶことは、直接、結びつかなくても、将来の全般的な資質・能力の向上につながればよい。」がともに、50%であった。
- (5) 企業内実習の障害についての問いに対して、「礼儀や挨拶等の基本的な社会生活上のマナーの欠如」・「実習への活動意欲の低さ」・「職場に馴染もうとする協調性の低さ」がそれぞれ100%、「安全に対する知識の不足」・「守秘義務に関する意識の希薄さ」がともに50%であった。
- (6) 学生が得た最も重要なものについての問いに対して、「自分の技術力のなさを実感したこと」・「社会生活上のマナーや規範意識」・「働く人たちの仕事に対する考え方・姿勢」・「座学(授業)と社会(現場)の違い」がそれぞれ50%であった。
- (7) 受入企業にとっての意義の問いに対して、「職場の雰囲気は賑やかになった。」100%、「少しは仕事の役に立った。」・「若い職員に学生を指導させたため、その職員の勉強になった。」がともに50%であった。
- (8) 大変なことについての問いに対して、「特に、大変なことはなかった。」・「学生に行わせるプログラム作りが大変だった。」がともに50%であった。
- (9) 配慮したことについての問いに対して、「建設業に興味を持たせるため、実習プログラムを工夫した。」・「職場に馴染ませるため、若い職員を指導係にした。」がともに50%であった。
- (10) 企業内実習を受け入れたことについての問いに対して、「地元の建設業で働く人材を確保するため、実習を受け入れた。」・「その他:学業とプロとの違いを体験し、将来に活かしてもらいたい。自社の若い職員にとっても、勉強になるから。」がともに50%であった。

【まとめ】

企業内実習を実施するには、事前の準備・指導が重要であり、特に、病気や怪我の対応や現場への交通手段など安全面について求められていることがこのアンケート結果から分かる。

また、学生には、企業内実習を通して、現在の実力のなさを感じ取り、学校の授業と現場とは異なることをはじめ、挨拶・礼儀・マナーといった働くことにおいて必要であることを認識してもらうことを求めていることが分かる結果となっている。

企業内実習を受け入れる企業は、職場が賑やかになったと企業単体としての意義はあるものの、学生に将来に向けた一助となる部分を補いながら地元地域の社会貢献としてのことを考えて企業内実習を受け入れていることが分かる結果となった。

企業内実習アンケート結果(学生用)

職種・形態	職種:大工・形態:短期集中型
実習先	兵庫土建組合神埼支部(神河町)
実習期間	9月15日 ~ 9月18日 合計4日(32時間)
実習内容	鉄筋平屋の倉庫を和風景観になじませる修景作業

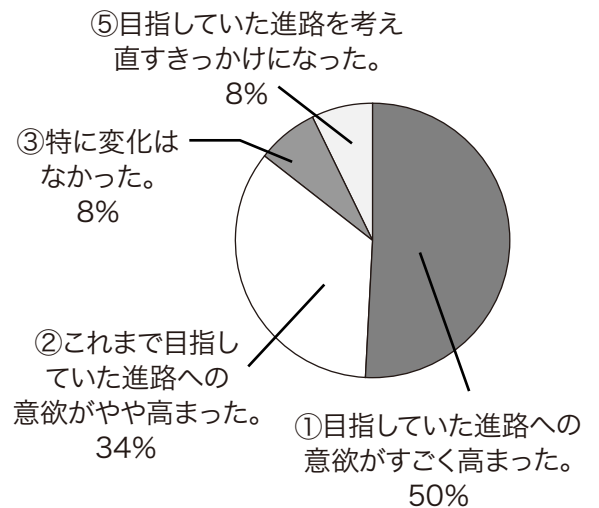
1 実習の成果

(1) 実習に参加して、得たことを上位から5点、箇条書きにしてください。

- ①自分の技術の未熟さが分かった。
- ②仕事の大変、難しさが分かった。
- ③丁寧に、正確に、素早く仕上げることなど、仕事の難しさが分かった。
- ④仕事に集中しながらも、周りに気を配ることが必要なことを学んだ。
- ⑤プロの職人さんの仕事のスピードの速さや技のすごさがわかった。
- ⑥皆と協力して仕事することの大切さを知った。
- ⑦コミュニケーションの大切さを感じた。
- ⑧安全面での確認作業の大切さを学んだ。
- ⑨材料を無駄遣いしてはいけないことを学んだ。
- ⑩作業をスムーズに進めるコツを学んだ。
- ⑪ノコ・ノミの使い方や高所での作業の方法を学んだ。
- ⑫使用したことのない機械や道具の使い方を学べた。
- ⑬工具の保管方法を学んだ。
- ⑭挨拶や礼儀、マナーの大切さを実感した。
- ⑮現場の緊張感を感じる事ができた。
- ⑯完成したときの達成感を味わえた。

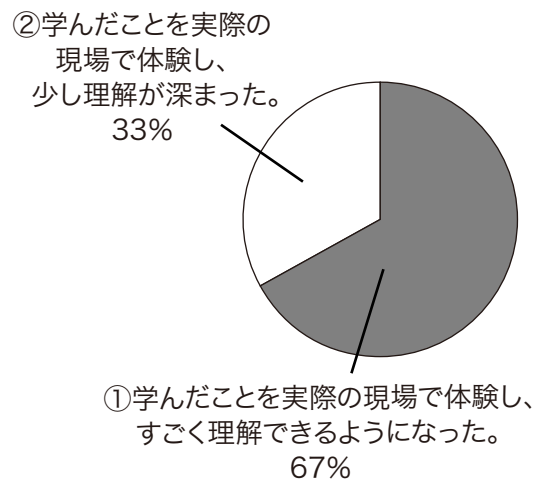
(2) 実習に参加して、自分の進路への考え方はどう変わりましたか。

項目	人数	割合
①これまで目指していた進路への意欲がすごく高まった。	6	50%
②これまで目指していた進路への意欲がやや高まった。	4	34%
③特に変化はなかった。	1	8%
④目指していた進路に迷いが出てきた。	0	0%
⑤目指していた進路を考え直すきっかけになった。	1	8%



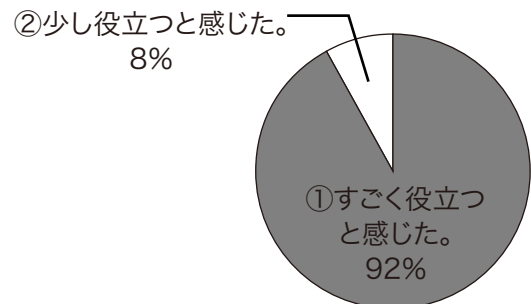
(3) 実際の現場で実習したことにより、これまでに学校で学んだことが、より理解できるようになりましたか。

項目	人数	割合
①学んだことを実際の現場で体験し、すごく理解できるようになった。	8	67%
②学んだことを実際の現場で体験し、少し理解が深まった。	4	33%
③実習に参加しても、学校で理解した程度とあまり変わりがなかった。	0	0%



(4) 実際の現場での実習は、これからの学習に役立ちそうですか。

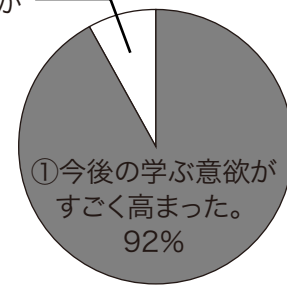
項目	人数	割合
①すごく役立つと感じた。	11	92%
②少し役立つと感じた。	1	8%
③役立つとは、あまり思わない。	0	0%



(5) 実習に参加したことにより、もっといろんなことを広く・深く学びたいという、意欲が高まりましたか。

項目	人数	割合
①今後の学ぶ意欲がすごく高まった。	11	92%
②今後の学ぶ意欲が少し高まった。	1	8%
③今後の学ぶ意欲はこれまでと変わらなかった。	0	0%

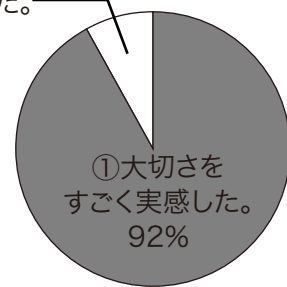
②今後の学ぶ意欲が少し高まった。
8%



(6) 実習に参加したことにより、礼儀や挨拶・マナーなどの大切さを感じましたか。

項目	人数	割合
①大切さをすごく実感した。	11	92%
②大切さを感じた。	1	8%
③大切さは、あまり感じなかった。	0	0%

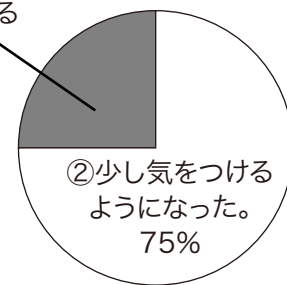
②大切さを感じた。
8%



(7) 実習に参加をしたことにより、日常生活においても礼儀や挨拶・マナーなどに気をつけるようになりましたか。

項目	人数	割合
①すごく気をつけるようになった。	3	25%
②少し気をつけるようになった。	9	75%
③これまでとあまり変わらない。	0	0%

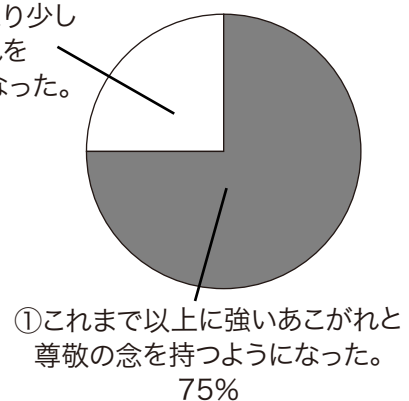
①すごく気をつけるようになった。
25%



(8) 実習に参加したことにより、職業人(職人)の生き方に対する見方が変わりましたか。

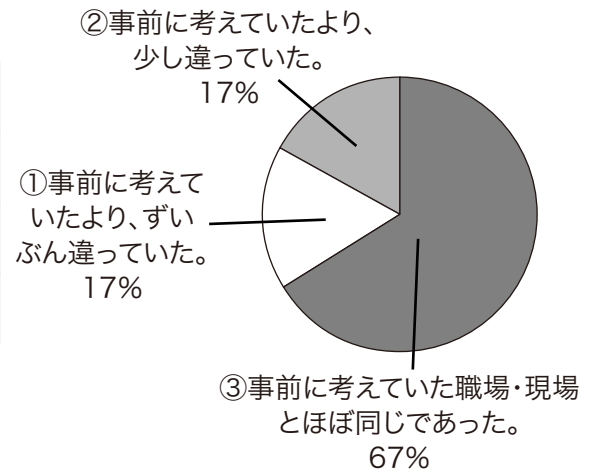
項目	人数	割合
①これまで以上に強いあこがれと尊敬の念を持つようになった。	9	75%
②これまでより少しあこがれを持つようになった。	3	25%
③これまでの見方とあまり変わらなかった。	0	0%

②これまでより少しあこがれを持つようになった。
25%



(9) 事前に考えていた職場・現場のイメージと実際は違っていましたか。

項目	人数	割合
①事前に考えていたより、ずいぶん違っていた。	2	17%
②事前に考えていたより、少し違っていた。	2	17%
③事前に考えていた職場・現場とほぼ同じであった。	8	67%



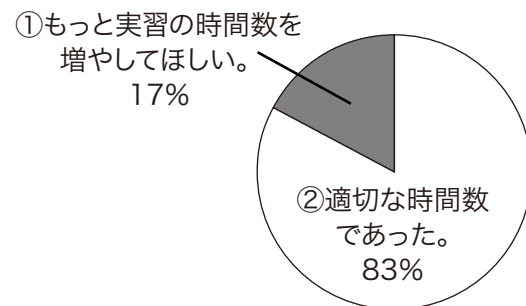
(10) 前の問い(9)で「ずいぶん違っていた」、「少し違っていた」と回答した方にお聞きします。どんな点が違っていましたか。箇条書きにしてください。

- ①怖い職人さんばかりだと思っていたが、そうでもなかった。
- ②仕事の流れが、思っていたより速かった。
- ③職人の皆さんは、のびのびと仕事をされていた。

2 実習のあり方

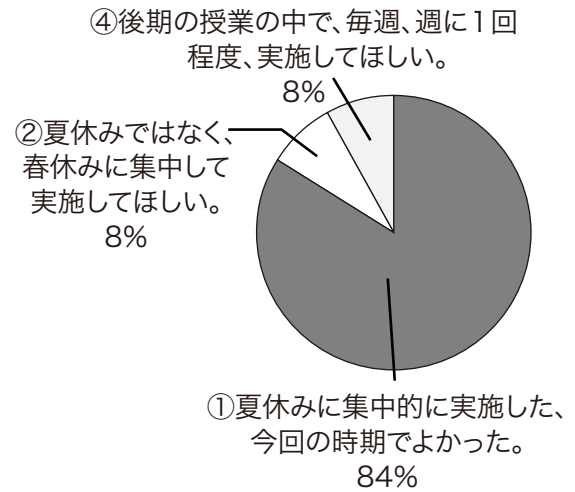
(1) 実習の期間は適切でしたか。

項目	人数	割合
①もっと実習の時間数を増やしてほしい。	2	17%
②適切な時間数であった。	10	83%
③もう少し実習の時間を減らしてほしい。	0	0%



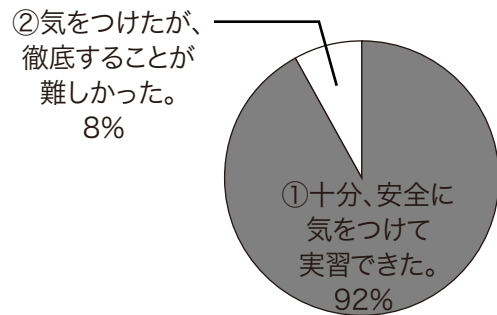
(2) 実習の時期は適切でしたか。

項目	人数	割合
①夏休みに集中的に実施した、今回の時期でよかった。	10	84%
②夏休みではなく、春休みに集中して実施してほしい。	1	8%
③前期の授業の中で、毎週、週に1回程度、実施してほしい。	0	0%
④後期の授業の中で、毎週、週に1回程度、実施してほしい。	1	8%



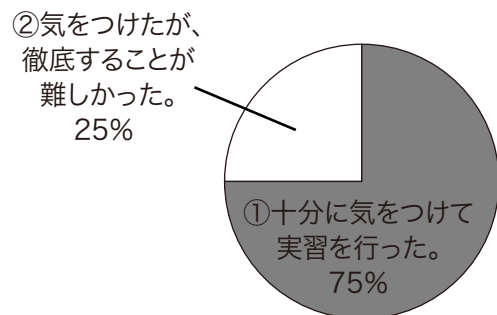
(3) 安全に気をつけて実習を行えましたか。

項目	人数	割合
①十分、安全に気をつけて実習できた。	11	92%
②気をつけたが、徹底することが難しかった。	1	8%
③何に気をつければよいか分からなかった。	0	0%



(4) 守秘義務があることを自覚し、実習が行えましたか。

項目	人数	割合
①十分に気をつけて実習を行った。	9	75%
②あまり自覚せずに実習を行った。	3	25%
③どんなことをしてはいけないの分からなかった。	0	0%
④守秘義務を違反して、注意を受けた。	0	0%



- 5 実習をさらに充実したものにするために、学校や受入企業にどのような工夫をしてほしいですか。改善点があれば箇条書きにしてください。

【学校に対して】

①宿泊場所を変えてほしい。

【企業に対して】

記載なし

アンケート結果(学生:神河)

- (1) 実習に参加して、自分の進路への考え方はどう変わりましたか。という問いに対して、「目指していた進路への意欲がすごく高まった。」50%、「目指していた進路への意欲がやや高まった。」33%であった。
- (2) 実際の現場で実習したことにより、これまでに学校で学んだことが、より理解できるようになりましたか。という問いに対して、「すごく理解できるようになった。」67%、「少し理解が深まった。」33%であった。
- (3) 実際の現場での実習は、これからの学習に役立ちそうですか。という問いに対して、「すごく役立つと感じた。」92%であった。
- (4) 実習に参加したことにより、もっといろんなことを広く・深く学びたいという、意欲が高まりましたか。という問いに対して、「学ぶ意欲がすごく高まった。」92%であった。
- (5) 実習に参加したことにより、礼儀や挨拶・マナーなどの大切さを感じましたか。という問いに対して、「すごく実感した。」92%であった。
- (6) 実習に参加をしたことにより、日常生活においても礼儀や挨拶・マナーなどに気をつけるようになりましたか。という問いに対して、「少し気をつけるようになった。」75%、「すごく気をつけるようになった。」25%であった。
- (7) 実習に参加したことにより、職業人(監督・職人)の生き方に対する見方が変わりましたか。という問いに対して、「これまで以上に強いあこがれと尊敬の念を持つようになった。」75%、「これまでより少しあこがれを持つようになった。」25%であった。
- (8) 安全に気をつけて実習を行えましたか。という問いに対して、「十分、安全に気をつけて実習できた。」92%であった。
- (9) 守秘義務があることを自覚し、実習が行えましたか。という問いに対して、「十分に気をつけて実習を行った。」75%であった。

【まとめ】

企業内実習を通して、学校で学んだことの再認識や学ぶ事に対して意欲が高まったという結果が得られた。また、礼儀・挨拶・マナーや守秘義務といった大切さを学ぶきっかけとなっている。

このように、実体験の中で学生自身の進むべき方向性や学んだことに対する再認識するきっかけの場となる企業内実習は、学生にとって有意義なものと考えられる。

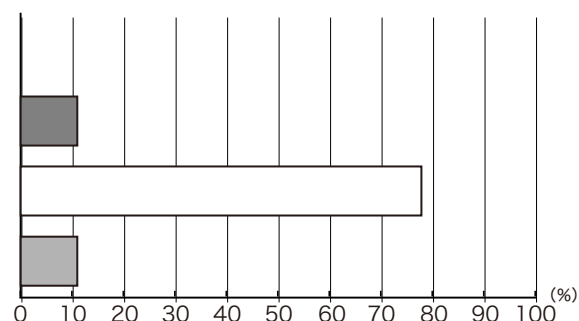
企業内実習アンケート(受入企業用)

職種・形態	職種:大工、形態:短期集中型
企業名	兵庫県土建組合神崎分会
実習期間	9月15日 ~ 9月18日 合計4日(32時間)
実習内容	鉄筋平屋の倉庫を和風景観になじませる修景作業

1 事前の準備・打ち合わせ等について

(1) 学校が事前に準備しておく必要があるものは、どんなものですか。(複数回答可)

項目	人数	割合
①学生の自宅住所や連絡先を書いた名簿	1	11%
②学生の仕事や将来に関する考え方を書いた作文	7	78%
③その他、必要と思われるもの	1	11%

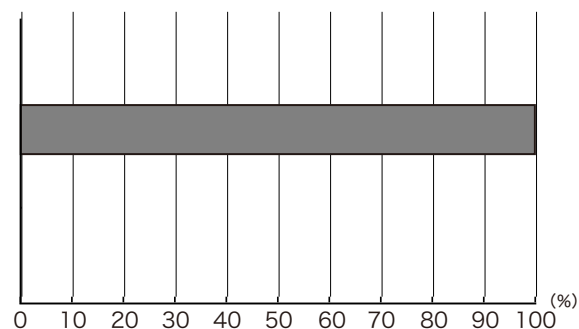


怪我に対する対処方法

・怪我に対する対処方法

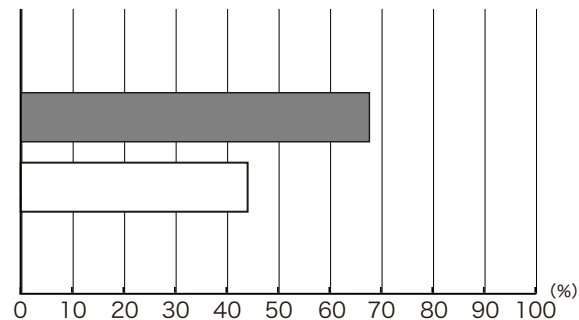
(2) 学校が事前に指導する必要があることは、どんなことですか。(複数回答可)

項目	人数	割合
①安全に関する知識と注意事項	9	100%
②守秘義務に関する知識と注意事項	0	0%
③その他、必要と思われるもの	0	0%



(3) 学校と事前に打ち合わせておく必要があるものは、どんなことですか。(複数回答可)

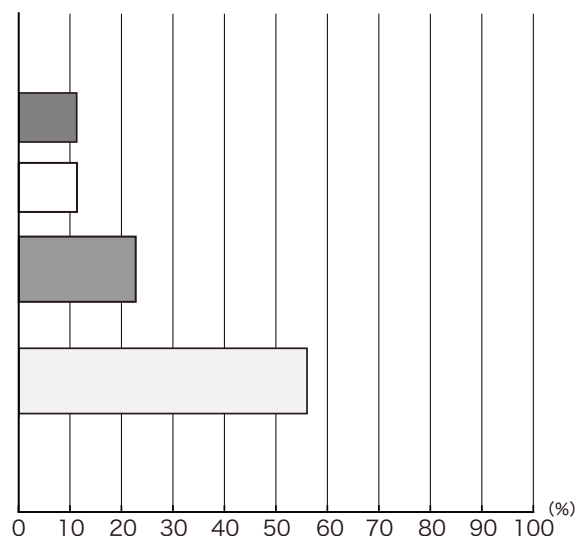
項目	人数	割合
①学生が怪我、病気になったときの対応方法	6	67%
②学生の学校での様子、個性など	4	44%
③その他、必要と思われるもの	0	0%



2 企業内実習を円滑に行うにあたっての学生の知識や障害について

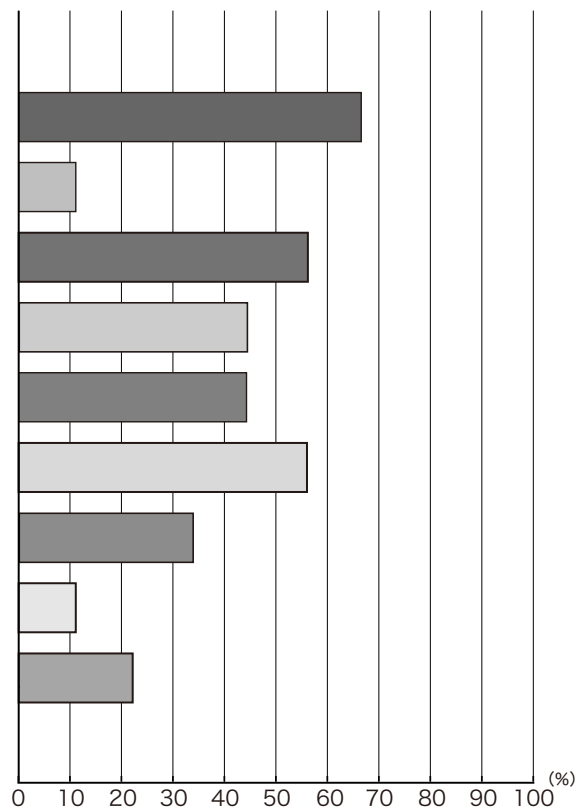
(1) 実習を行う学生は、どの程度の建設の知識が必要ですか。(1つ選択)

項目	人数	割合
①実習を行う内容について、学校で学んでおく必要がある。	1	11%
②実習を行う内容について、できれば学校で学んでおいたほうがよい。	1	11%
③基本的なことが理解できていれば、実習で行う内容を学校で学んでいなくてもよい。	2	22%
④実習で行うことと、学校で学ぶことは、直接、結びつかなくても、将来の全般的な資質・能力の向上につながればよい。	5	56%
⑤その他	0	0%



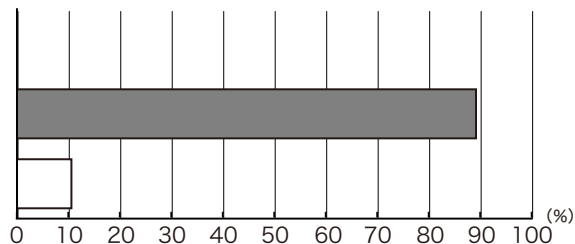
(2) 実習の障害となるのはどんなことだと思われますか。(複数回答可)

項目	人数	割合
①安全に対する知識の不足	6	67%
②守秘義務に関する意識の希薄さ	1	11%
③礼儀や挨拶等の基本的な社会生活上のマナーの欠如	5	56%
④ルールを守る規範意識の欠如	4	44%
⑤実習への活動意欲の低さ	4	44%
⑥積極的に学ぼうとする能動性の低さ	5	56%
⑦コミュニケーション能力の低さ	3	33%
⑧職場に馴染もうとする協調性の低さ	1	11%
⑨他者への思いやりの心の低さ	2	22%
⑩その他	0	0%



(3) 実習中に問題となることがありましたか。(1つ選択)

項目	人数	割合
①なかった。	8	89%
②あった。それは、どんなことですか。	1	11%

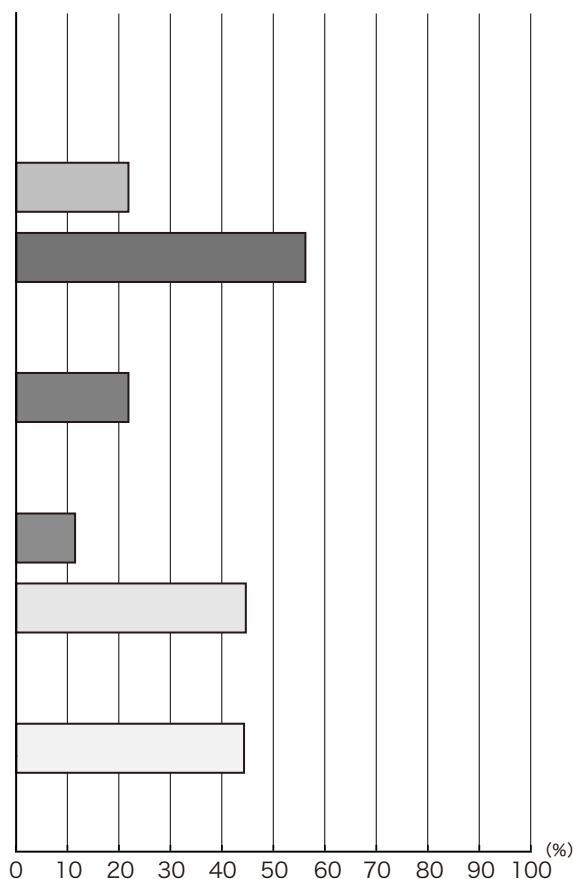


・声が出ていない。
・返事がない。

3 企業内実習の意義について

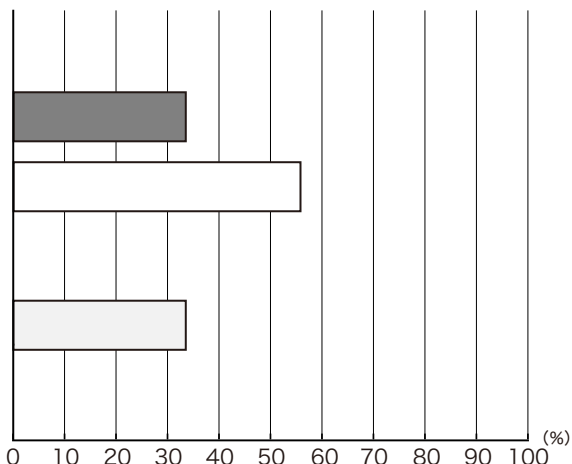
(1) 学生たちが、この実習で得た最も重要なものは何だと思われませんか。(2つ選択)

項目	人数	割合
①建設や職種に関する知識・技能	0	0%
②現場の仕事の大まかな流れ	2	22%
③現場の雰囲気	5	56%
④自分の技術力のなさを実感したこと	0	0%
⑤自分の志望と現実の職場とのギャップ	2	22%
⑥安全に関する知識や態度	0	0%
⑦社会生活上のマナーや規範意識	1	11%
⑧協力することの大切さや他人とのネットワークの必要性	4	44%
⑨働く人たちの仕事に対する考え方・姿勢	0	0%
⑩座学(授業)と社会(現場)の違い	4	44%
⑪その他	0	0%



(2) 実習受入企業にとって、どのような意義がありましたか。(複数回答可)

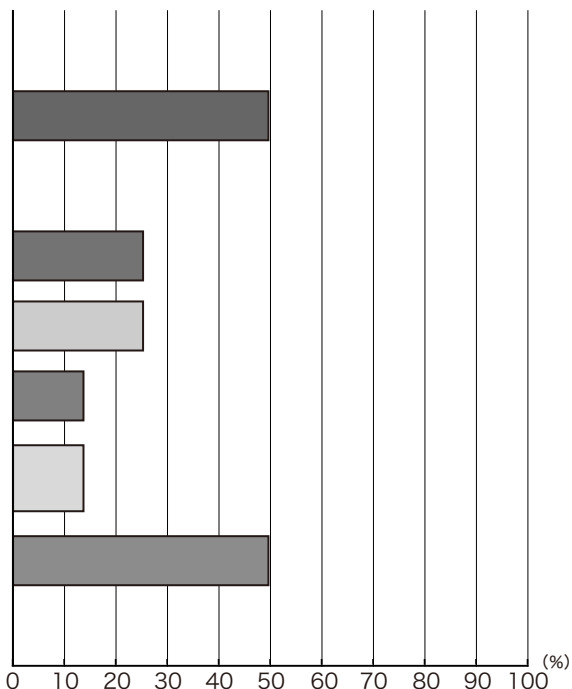
項目	人数	割合
①少しは仕事の役に立った。	3	33%
②若い学生が実習に来たことにより、職場の雰囲気がいよよかになった。	5	56%
③若い職員に学生を指導させたため、その職員の勉強になった。	0	0%
④企業にとって、直接的なメリットはなかった。	3	33%
⑤その他	0	0%



4 企業内実習全体を振り返って

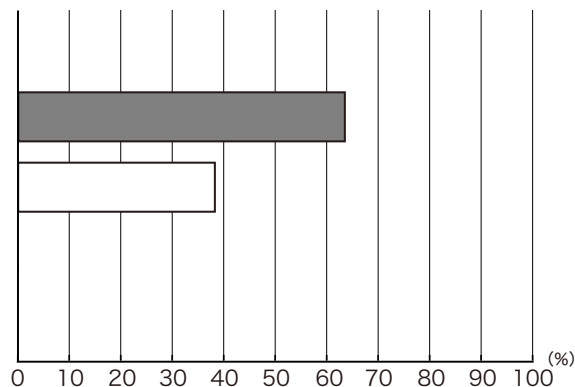
(1) 実習受入企業にとって、どんなことが大変だったですか。(複数回答可)

項目	人数	割合
①学生に行わせるプログラム作りが大変だった。	4	50%
②仕事が忙しくて、学生を指導する職員がいなくて困った。	0	0%
③学生が消極的で一つ一つ指示しないと動かないので困った。	2	25%
④学生の安全面の配慮で、大変に気がつかった。	2	25%
⑤仕事が忙しく、毎日、日報に目を通すのが大変だった。	1	13%
⑥学生の評価を依頼されたが、ずっと観察していないので評価することが難しかった。	1	13%
⑦特に、大変なことはなかった。	4	50%
⑧その他	0	0%



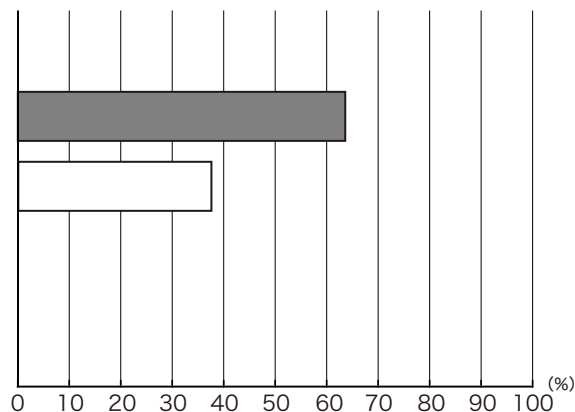
(2) 特に企業として、ご配慮いただいたことは、どんなことですか。(複数回答可)

項目	人数	割合
①建設業に興味を持たせるため、実習プログラムを工夫した。	5	63%
②現場の実際の様子を体験させるため、職員の一員として仕事に取り組みさせた。	3	38%
③職場に馴染ませるため、若い職員を指導係にした。	0	0%
④その他	0	0%



(3) どのような考えのもと、実習を受け入れていただいたか、お聞かせください。(複数回答可)

項目	人数	割合
①社会が求めている即戦力の育成に貢献するため、実習を受け入れた。	5	63%
②地元の建設業で働く人材を確保するため、実習を受け入れた。	3	38%
③学生に現場の実際を体験させ、早期退職等のミスマッチを防ぐことに尽力するため、実習を受け入れた。	0	0%
④その他	0	0%



アンケート結果(企業:神河)

- (1) 学校が事前の準備・打ち合わせ等の学校が事前に準備しておく必要があるものについての問いに対して、「学生の仕事や将来に関する考え方を書いた作文」78%、「学生の自宅住所や連絡先を書いた名簿」11%であった。
- (2) 学校が事前に指導する必要があることについての問いに対して、「安全に関する知識と注意事項」100%であった。
- (3) 学校と事前に打ち合わせておく必要があるものについての問いに対して、「学生が怪我、病気になったときの対応方法」67%、「学生の学校での様子、個性など」44%であった。
- (4) 建設の知識の必要性についての問いに対して、「実習で行うことと、学校で学ぶことは、直接、結びつかなくても、将来の全般的な資質・能力の向上につながればよい。」56%、「基本的なことが理解できていれば、実習で行う内容を学校で学んでいなくてもよい。」22%であった。
- (5) 企業内実習の障害についての問いに対して、「安全に対する知識の不足」67%、「礼儀や挨拶等の基本的な社会生活上のマナーの欠如」・「積極的に学ぼうとする能動性の低さ」56%であった。
- (6) 学生が得た最も重要なものについての問いに対して、「現場の雰囲気」56%、「協力することの大切さや他人とのネットワークの必要性」・「座学(授業)と社会(現場)の違い」がともに44%であった。
- (7) 受入企業にとっての意義の問いに対して、「若い学生が実習に来たことにより、職場の雰囲気が賑やかになった。」56%、「少しは仕事の役に立った。」33%であった。
- (8) 大変なことについての問いに対して、「特に、大変なことはなかった。」・「学生に行わせるプログラム作りが大変だった。」がともに50%であった。
- (9) 配慮したことについての問いに対して、「建設業に興味を持たせるため、実習プログラムを工夫した。」63%、「現場の実際の様子を体験させるため、職員の一員として仕事に取り組みさせた。」38%であった。
- (10) 企業内実習を受け入れたことについての問いに対して、「社会が求めている即戦力の育成に貢献するため、実習を受け入れた。」63%、「地元の建設業で働く人材を確保するため、実習を受け入れた。」が38%であった。

【まとめ】

企業内実習を実施するには、事前の準備・指導が重要であり、特に、学生の仕事に関する将来的なことや安全面について求められていることがこのアンケート結果から分かる。

また、学生に求めることについては、安全に対する意識や知識よりも学ぶ意欲・姿勢といった向上心を持って企業内実習に取り組んでほしいとの考えをもっていることが見えた。

企業内実習を受け入れる企業は、職場が賑やかになったと企業単体としての意義はあるものの、地元地域の社会貢献としてのことを考えて企業内実習を受け入れていることが分かる結果となった。
